



5月あたりから、園での生活に虫が登場する回数がグッと増えてきます。園庭のちょうちょなどは、子ども達も大喜びでプラスしかありませんが、多足形の虫が保育室に入ってくるとむしろ大人が大騒ぎしてしまいます。外見からくる刺激で、毒性の有無に関わらず本能的に避けてしまうのかもと思ったりもしますが、子ども達の反応を見ていると、案外「虫が怖い」は後天的要素の占める割合が大きいのかなと感じます。園庭遊びで毎回虫を大量に捕まえて見せてくれる子がいます。性差なく色々な子ども達が虫を見にきますし、嫌がるそぶりを見せない子もたくさんいます。いっぽう先生達は、プロとして子ども達の見つけた宝物を嫌がるそぶりをなんとか見せない様に努力しつつも、顔が引き攣っていたりします。子ども達に『大人にも苦手なものがある』、という当たり前のようで、新鮮な気づきを与えてくれるのも、虫の大きな保育貢献です。 園長 山田